様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５４６３３０５

研究課題名（和文）がん患者の意思決定を支える看護者の役割と倫理教育

研究課題名（英文）The role of nurses in decision making support of cancer patient and the

研究代表者
中尾　久子（NAKAO, Hisako）

九州大学・医学研究院・教授

研究者番号：８０１６４１２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：がんの診断や治療に関する説明を受けて選択に悩む患者への看護師の支援について検討した。がん看護を実践する看護師を対象として、倫理的問題の認識、がん患者への意思決定支援、必要な教育に関する質問紙調査を行った。認識された倫理的問題では5つの因子が抽出された。意思決定については支援の必要性の認識に比べて実施が少なく実施が困難な状況が伺えた。がん看護の経験が豊富な看護師を対象に意思決定支援の困難に関する面接調査を行い質的に分析した結果、9つのカテゴリー、37のサブカテゴリーが見出された。求められる教育としては、がんの疼痛管理やコミュニケーション技術、医療・介護サービスの情報などの回答が得られた。

研究成果の概要（英文）：We investigated support by nurses to cancer patients troubled by their choices after receiving explanations regarding their cancer diagnosis and treatment. We conducted a questionnaire survey to 700 nurses engaged in cancer nursing regarding their awareness of ethical issues, decision making support for cancer patients, and required education. In their awareness of ethical issues, five factors were found. Regarding decision support, the practice was lower than the recognition of the necessity of support. Next, we interviewed 12 nurses with abundant cancer nursing experience regarding the difficulty of providing decision-making support, and a qualitative analysis of them resulted in classified 9 categories, and 37 subcategories. Furthermore, regarding the education required, we received answers such as cancer pain management, communication skills, and information on medical care/home care services.

研究分野：臨床看護学

キーワード：がん患者　意思決定支援　がん看護　倫理的問題状況　看護者の役割　認識と実施　看護倫理教育

１．研究開始当初の背景

我国の国民の死因の第１位はがんで、年間 30 万人以上ががんで死亡しており、平成 18 年にがん基本法が制定され、がん医療の充実が図られた。がんの早期発見が可能になり治療の選択肢が増え、長期にがんと生きる人が増えたことにより、がんに伴う悪い知らせ（bad news:悪性の診断、治療効果、予後、終末期）を受けて治療内容や治療の場を意思決定する過程で、がん患者が判断に迷い悩む状態が生じている。

従来、主治医は診断時から一貫して患者と係るため、担当患者への責任感から患者を抱え込み、病状説明や治療法の説明、治療方針の決定に大きな影響を与えることが報告されている。日本人は一般的特性として「がん」に対して不安が強く、文化的背景として和を重んじ、自己主張が少なく、意思表示も曖昧な傾向があると言われている。厚生労働省の調査で、病名や病気の見通しについて患者・家族に説明した後に、患者・家族が「納得のいく説明」ができていないと思っている割合は医師が５％未満であるのに対して看護者は約 30%という調査結果もあり、医師-患者間のコミュニケーション不足が考えられる。

がん医療の場では、がんの進行に伴う悪い知らせと治療選択、ギアチェンジなど、患者の意思決定への支援が大きな課題となっている。看護者は医療チームで医師と協同して医療行為を行いながら、患者の生活面の看護ケアを行っている。主治医のように患者の診断時から一貫して関わることはできないが、患者の最も身近な存在として、医療的な係わりだけでなく､直接的ケアを通して 24 時間、患者を観察、話す、見守る機会が多く、医学的な情報だけでなく、心理・社会的情報を得る機会が多い。また、患者は病気や治療に関する様々な疑問を看護者に尋ねている。医師-患者の関係とは違って、看護者には、医師の説明を補うことや関係性を調整する役割が求められていると言えよう。また看護者は看護の特性から患者に関する多くの情報に接することができ、かつ多方面の調整ができる立ち位置にいる。意思決定の問題状況においても、看護者の認識・対処によって、その後の展開は異なってくると考えられる。

先行研究では、看護者は倫理的問題へ直面・悩んでいるが、認識や対処に個人差があること、看護倫理の教育を十分に受けていないと感じている場合、指導的立場の看護者であっても倫理的判断や対処に自信を持っているとはいえない者が多いことが明らかになった。このような背景から、がん医療における患者の意思決定を支援する看護者の倫理的問題状況についての認識、判断と対処の調査を通してその現状を明らかにし、今後さらに増加するがん患者に対して、より良い医療・看護を提供するために看護倫理教育の充実が不可欠であると考えた。

２．研究の目的

(1)がん医療における「悪い知らせ」とその後の患者の意思決定の過程で看護者が直面する・悩む倫理的問題の認識

(2)看護者のがん患者の意思決定支援に関する対処役割の認識と実施状況

(3) 看護者が患者の意思決定に関してこれまで受けた倫理教育と今後望まれる教育

以上の点について、調査および検討を行いその内容を明らかにする

３．研究の方法

【平成 25 年度】

がん医療・看護における倫理的問題、特に患者の意思決定に関連して看護者が直面する・悩む倫理的問題の認識、判断や対処に関する国内外の先行研究の文献検討を行った。また、調査の前段階として、がん医療に携わる認定看護師、がん看護の経験豊かな看護師に、本研究の調査内容に関する意見を尋ねた。

【平成 26 年度】

平成 25 年度に作成した質問紙を認定看護師、看護学の大学院生を対象に予備調査を行い、修正を加えた質問紙を用いて 4 つの総合病院のがん看護に従事する看護師 700 名を対象に無記名の質問紙調査（一次調査）を行い、その結果を分析した。なお、本研究の調査開始前に、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の承認を得た。

【平成 27 年度】

平成 26 年度に実施した一次調査のデータ分析を進めた。また、平成 27 年度は、がん看護の経験が豊富な看護者を対象に半構成的面接法による面接（二次調査）を行い、許可を得て録音データから逐語録を作成し、質的記述的研究方法を用いデータ分析を行った。

【平成 28 年度】

平成 27 年度に行った質的研究のデータ分析を進めた。対象者 12 名全員のデータを研究者各自が読み、2 名の研究者間での検討、その後全員での検討を行った。研究者間で共通点、相違点について、意見が一致するまで検討を繰り返し、コード、サブカテゴリー、カテゴリーと抽象度を上げていった。また、これまでの文献研究、量的研究（一次調査）および質的研究（二次調査）を通した研究全体の振り返りを行った。

４．研究成果

【平成 25 年度】

国内外のがん患者の意思決定支援に関する文献を検索・収集し、検討した。特に国内文献 141 件から本研究の目的に合致する 58 件の内容を分析し、がん患者の意思決定支援に影響を与える因子を 9 つ見出した。調査の前段階として、文献で見出した因子に加えて、がん看護に関する認定看護師および看護師から患者の意思決定にする倫理的問題の認識、判断、看護者の対処役割、意思決定支援

に関連する看護倫理教育に関する意見を聞き、質問項目を整理して、質問紙を作成した。
【平成 26 年度】
質問紙調査を行い、看護師 700 名のうち 573 名から回答を得、545 名を対象に分析を行った。対象者は年齢 30 歳代が 40%以上、85%が看護スタッフであった。看護師の患者の意思決定に関する倫理的問題の認識では、IC の際の説明の分り難さ、時間的余裕の無さ、家族間の意見の対立の項目の得点が高かった。意思決定に関する問題に関する質問項目の 5 つのカテゴリーの比較では、医師に関連する問題の得点が最も高く、患者に関する問題の得点が最も低かった。がん患者の意思決定時の看護者の支援の必要性（対処役割）については、認識の項目の平均得点 82.6 点であった。認識では「個人情報保護」「患者を人として尊重し誠実に対応」が 90 点以上と高い一方で、「患者会の情報提供」「インターネット・雑誌等の情報提供は 70 点未満と低かった。意思決定支援に関する教育では、在学中に学んだ経験があると回答した者は少なく、今後学びたい内容は、精神的ケア、より良い意思決定のための選択肢（治療、緩和ケア、在宅医療のしくみ）の知識や情報、コミュニケーション技術等の回答を得た。
【平成 27 年度】
一次調査の分析を進め、成果をまとめた。看護者がが患者の意思決定支援に関して困難を感じる問題として、因子分析の結果、5 つの因子（①医師等の患者への説明に関する不備（難しい専門用語、一方的な説明など）、2.意思決定に関する患者の準備不足（理解力、判断力など）、3.情報入手やシステムの困難、4.看護者の状況的制約や困難さ（時間的余裕の無さ、IC 同席機会の困難など）、5.意思決定に関わる家族の介入（患者と家族の対立など））を見出した。意思決定時の看護者の支援の必要性（対処役割）では、認識と実施の項目間に正の相関関係があり、認識が高い場合は実施も行えていた。しかし、認識に対して実施が全体的に低い得点であり、実施が困難な状況が考えられた。
二次調査の対象者 12 名の平均年齢は 36.4 歳、がん看護の経験年数が 13.4 年であった。対象者 1 名当たり平均 47 分間の面接を行って得たデータの検討を通して、がん患者の意思決定に関する看護についてのコード、サブカテゴリー、カテゴリーと意味内容の抽象化を進めていった。
【平成 28 年度】
平成 27 年度に引き続き、定期的に検討の機会を持ち、質的研究のデータ分析を進めた。がん患者の意思決定に関わる看護師の支援の実施が難しい状況に鑑み、看護師の困難に焦点を当てて分析を行った。看護師が意思決定を支援する上での困難として、①患者の辛い体験を真に共有すること、②がんを人生の一部として受入れてもらうこと、③業務が多忙でゆとりがない中で本質に係わること、④患者の思いだけで決められない状況、⑤家族の支援が受けられない患者の支援、⑥医療チームの情報共有や協働、⑦患者の生活環境や社会的問題への支援、⑧正解がないこと、⑨積極的に介入して責任を背負うことへの躊躇の 9 つのカテゴリーと 37 のサブカテゴリーが抽出された。さらに、これらの意思決定支援に関する困難のカテゴリーは、①患者に寄り添う看護を実践するうえでの困難、②患者とその周囲の人々との関係や連携に関する困難、③責任感から来る正解のない支援を実践することの困難の 3 つにまとめられた。また、今後学びたい教育内容として、看護実践に役立つロールプレイなどを含むコミュニケーション技術、より良い患者の意思決定支援につながるための新しい治療や患者支援のしくみに関する知識や情報などの希望があった。
以上の内容を以下にまとめる。
(1) がん患者の意思決定支援で看護者が認識する倫理的問題には、①医師等の説明の分り難さ、②患者の準備状況、②情報入手やシステム、④看護者の状況的制約や困難、⑤家族の介入の５つの因子が影響していた
(2) 看護者のがん患者の意思決定支援に関する対処役割の認識と実施には相関関係があり、認識は高い場合は実施も行えていたが、全体的に認識より実施が低かった。意思決定支援が難しい状況には、①患者に寄り添う看護を実践するうえでの困難、②患者とその周囲の人々との関係や連携に関する困難、③責任感から来る正解のない支援を実践することの看護上の困難があった。
(3) 看護者が患者の意思決定に関して受けた倫理教育の機会は少なく、今後、より良い意思決定支援を行うために、精神的ケア、意思決定のための選択肢（治療、緩和ケア、在宅医療、福祉関連）の知識や情報、コミュニケーション技術等の教育が望まれていた。
なお、本研究に関する研究成果は、投稿中の論文、発表確定の学会等も含め、今後も公表を続けていく予定である。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計　13　件）
①村井 孝子，中尾 久子：看護師長が体験した倫理的問題とその頻度：県全域の看護師長を対象とした質問紙調査より，日本看護倫理学会，8，1，70-77，2016.03．査読有．

② Yumiko kinoshita, K,M.Nokes, Rieko Kawamoto, Maki Kanaoka, Mami Miyazono, Hisako Nakao, Akiko Suyama Chishaki, Ryuichi Mibu,：Health-related quality of life in patients with lower rectal cancer after sphincter-saving surgery: A prospective 6-month follow up study, European Journal of Cancer Care, 2015.10. 査読有．
③中尾 久子：看護にとっての倫理とは，看護

のチカラ, No.435, 5-9, 2015.10. 査読無.

④梶原 弘平, 中尾 久子：地域に戻る認知症高齢者の生活は継続できるのか, 看護のチカラ, No.435,17-22, 2015.10. 査読無.

⑤中尾 久子, 木下 由美子, 金岡 麻希, 梶原 弘平, 潮 みゆき：新人看護師が直面する看護倫理に対する考え方と解決法, 看護のチカラ, No.425, 62-64, 2015.04. 査読無.

⑥ Yumiko kinoshita, Akiko Suyama Chishaki, Rieko Kawamoto, Tatsuya Manabe, Takashi Ueki, Keiji Hiarata, Mami Miyazono, Maki Kanaoka, Tomioka Akiko, Masahiro Nakano, Tomoko Ohkusa, Hisako Nakao, Ryuichi Mibu ： A longitudinal study of gender differences in quality of life among Japanese patients with lower rectal cancer after sphincter -saving surgery: a 1-month follow up, World Journal of surgical Oncology, 2015. 03. 査読有.

⑦原田 博子, 中尾 久子：事例とともに考える倫理教育(第 6 回)看護管理者としての倫理的感受性, 19 巻 412 号 Page44-47, 2014.09. 査読無.

⑧宮園 真美, 中尾 久子：事例とともに考える倫理教育(第 5 回)「権威」に対するアサーティブコミュニケーション, 師長主任業務実践, 19 巻 410 号 Page98-101, 2014.08. 査読無.

⑨中尾 久子, 金岡 麻希：事例とともに考える倫理教育(第 4 回) 移植手術を受ける患者家族への支援, 師長主任業務実践, 19 巻 409 号 Page75-79, 2014.07. 査読無.

⑩中尾 久子, 潮 みゆき：事例とともに考える倫理教育(第 3 回) 手術を受ける患者へのインフォームド・コンセント, 師長主任業務実践, 19 巻 407 号 Page62-65, 2014.06. 査読無.

⑪中尾 久子, 梶原 弘平：事例とともに考える倫理教育(第 2 回) 意識レベルの低下した患者への抑制, 師長主任業務実践, 19 巻 405 号 Page82-85, 2014.05. 査読無.

⑫ Yumiko kinoshita, Rieko Kawamoto, Akiko Suyama Chishaki, Mami Miayazono, Maki Kanaoka, Akiko Tomioka, Chie Magota, Miyuki Ushio, Hisako Nakao, Ryuichi Mibu, The Correlation between Rosenberg Self-esteem and QOL in Patients with Lower Rectal Cancer after Sphincter-saving Surgery: A Prospective 12-month Follow-up Study, International Nursing Care Research, 1-7, 13 巻 2 号, 2014.05. 査読有.

⑬中尾 久子, 木下 由美子：事例とともに考える倫理教育(第 1 回) 終末期医療, 産労総合研究所, 19 巻 403 号 Page54-57, 2014. 04. 査読無.

〔学会発表〕（計 8 件）

①中尾 久子, 木下 由美子, 金岡 麻希, 潮 みゆき, 新 裕紀子, 梶原 弘平, 樗木 晶子, 看護師のがん患者の意思決定支援役割の必要性の認識とその実施状況、 日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10. 査読有.

②Hisako Nakao, Yumiko Kinoshita, Maki Kanaoka, Miyuki Ushio, Kohei Kajiwara, Yukiko Arata, Kimie Fujita, Akiko Suyama Chishaki: State of nursing support for decision-making by cancer patients in Japan, International Conference on Cancer Nursing, 2016, 2016.09.06. Hong kong, 査読有.

③ Takako Murai, Hisako Nakao: A comparison by hospital size of the ethical issues experienced by nurse managers -Finding from X prefecture wide questionnaire survey in Japan-, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2016. 03.14. Chiba, 査読有.

④中尾 久子, 木下 由美子, 金岡 麻希, 梶原 弘平, 潮 みゆき, 樗木 晶子：がん患者に対する意思決定支援時に看護者が困難を感じた問題, 日本看護科学学会学術集会, 2015.12.05. 査読有.

⑤Hisako Nakao, Yumiko kinoshita, Maki Kanaoka, Kohei Kajiwara, Miyuki Ushio, Kimie Fujita, Akiko Suyama Chishaki: A study of regarding the connection between decision-making of cancer patients and nurses in Japan, The 4th ENDA-WANS-Congress, 2015.10.16. Hannover, 査読有.

⑥Maki Kanaoka, Yumiko kinoshita, Mami Miyazono, Hisako Nakao: Feeling and Action of Living donors Toward Recipients During the Perioperative Period of Adult –Adult Liver Transplantation, 23rd Annual International Transplant Nurses Society Symposium, 2014.09.28. Houston, 査読有.

⑦Hisako Nakao, Akiko Suyama Chishaki, Mami Miyazono, Yumiko kinoshita, Maki Kanaoka, Tomioka Akiko, Kohei Kajiwara, Chie Magota, Miyuki Ushio.: Change in consciousness of the nursing student through experience-based education about

physical restraint, 29th International Congress of Applied Psychology, 2014. 06. 25. Paris, **査読有**.

⑧Hisako Nakao, Akiko Chishaki, Mami Miyazono, Yumiko Kinoshita, Maki Kanaoka, Akiko Tomioka, Chie Magota, Miyuki Ushio, Kohei Kajiwara, Rieko Kawamoto ： Ethical issues of cancer patients in maintenance treatment period or in stable period, Asian oncology Society conference, Bangkok, 2013, 11.23. **査読有**.

〔図書〕（計　1　件）
①中尾 久子,：看護倫理実践事例 46. **第** 1 **章** 4.**看護倫理教育のすすめ方、看護学生の習熟度に応じた倫理教育のあり方**, **日本総合研究所**, 2014.06.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
⑴研究代表者
中尾　久子（NAKAO, Hisako）
九州大学・医学研究院・教授
研究者番号：80164127

⑵研究分担者
樗木　晶子（CHISHAKI, Akiko）
九州大学・医学研究院・教授
研究者番号：60216497

宮園　真美（MIYAZONO, Mami）
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：10432907
木下　由美子（KINOSHITA, Yumiko）
九州大学・医学研究院・講師
研究者番号：30432925

金岡　麻希（KANAOKA, Maki）
産業医科大学・産業保健学部・講師
研究者番号：50507796

富岡　明子（TOMIOKA, Akiko）
九州大学・医学研究院・助教
研究者番号：20437627
（平成 27 **年** 3 **月** 31 **日削除）**

中島　充代（NAKASHIMA, Mitsuyo）
福岡大学・医学部・准教授
研究者番号：60320389

潮　みゆき（USHIO, Miyuki）
九州大学・医学研究院・助教
研究者番号：40622113
（平成 27 **年** 4 **月** 1 **日追加）**

梶原　弘平（KAJIWARA, Kohei）
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・助教
研究者番号：10437626
（平成 27 **年** 4 **月** 1 **日追加）**